お母さんのためのお役立ちコラム

構図とアングルにこだわる、子どもの写真の撮り方テクニック

5歳になると落ち着きが出てきて、一つのことにジッと打ち込む姿も見かけます。手ブレを気にせずに写真を撮れる機会も増えたことでしょう。ゆっくりと構図を考え、アングルやバリエーションを変えて撮ってみると、成長を実感できるすてきな写真がたくさん撮れます。

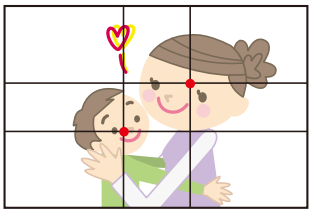
松井なおみさん

スタジオZui主宰。広告から雑誌、ホームページ、イベントなど幅広く撮影するフォトグラファー。女性ならではの感性を生かし、美容関係や自然な表情を引き出す人物撮影も得意とする。大の子ども好きで4歳の甥っ子にメロメロの毎日。

5歳になると、以前のように動き回るお子さんを追いかけて撮ることもなく、シャッターチャンスを狙わなくてもポーズをつくってくれるので写真撮影がスムーズになることでしょう。アングルを子どもの目線視点にして、ゆっくりと構図を考えて撮ってみませんか?

「ローアングル+広角レンズ（広い角度が写せるレンズ）」で撮影すると、下からの視点で撮ることによって普段、子どもが見ている世界を見ることができます。液晶モニターの角度を自由に変えたり回転させることができるバリアングル液晶のタイプはローアングルに最適です。

例えば寝顔など、全身を写すのではなく「アップで撮る」とお子さんのかわいい部分やもちもち肌の質感が強調されます。おもいっきり寄ってみて、メインを大胆なくらいに大きくしてその他はあえて写さないことで写真にメッセージ性が生まれます。

光がある場所を探せば「キラキラ撮影」ができます。ガラスや電気、水、葉っぱ、看板などキラキラした点光源に太陽の光を反射させると躍動感のある写真が撮れます。ピントが合うギリギリのところまで被写体（お子さん）に近づき、まわりはボカすとよりキラキラがきれいに映り込みます。ズームレンズやズーム機能があれば望遠側で撮るといいでしょう。

動きのあるお子さんの写真を瞬間で撮ると構図バランスが悪いことが多くあります。例えば、被写体を中央に置いて大きく写すとダイナミックさは表現できても、奥行きが感じられなく閑散とした印象に。被写体の配置場所や風景の切り取り方の構図は重要です。イラストのように4本の線をイメージし、線が交差する部分に写したいものを合わせるとバランスのよい構図になります。カメラによっては分割線をファインダーや液晶に表示できるので、有効に使いましょう。